

佐久地域つながろう・つなげよう意見交換会 概要

令和4年7月12日(火) 10:00~11:45

脇本陣の宿 桑屋 (小諸市)

■ テーマ

車に頼らない観光振興

■ 参加者

○ 県民

小諸市都市計画課長 山浦 修 様

南牧村産業建設課長 津金 初男 様

佐久市観光協会事務局長(佐久市観光課長) 佐々木 和弘 様

長野県酒造組合佐久支部 PR 委員会委員長(千曲錦酒造株式会社 代表取締役) 鎌田 晴之 様

株式会社フィールド・マネジメント 代表取締役 大雲 芳樹 様

○ 県(佐久地域振興局)

局長 高橋 功、企画振興課長 鷹野 裕司、商工観光課長 武田 一弘

■ 主な意見

・イニシャルコストをある程度行政に出してもらって、いずれ民間が自走して、マネタイズできればよい。オペレーションは民間。行政には、プラットフォーム作りを一緒にしてもらえるとありがたい。

・軽井沢と佐久は距離的には近いが、(公共交通を活用すると)実際はすごく遠い。交流の仕組みづくりのようなことを、行政にやってもらいたい。

・広域的な DMO を設立して広域的な観光振興ができればいいが、イニシアチブをどこがとるのが問題。

・日本酒は、酒蔵に直接来て試飲してもらわなくても、その土地で消費できればよい。

・軽井沢から佐久にお客は来ている。軽井沢にないものを求めて来る。

・年齢層で求めるものが変化。Z世代は体験がないと来ない、買わないと言われている。

・MaaS の PR は HP・SNS 等でやっているが、これだけではほぼ来ない。首都圏から来た人に知ってもらい、リピーターとなってもらう。地道な活動。

・駅のスロープはイベント企画時に有利。駅のバリアフリー対策について、県や国など補助金により促進できるのではないか。

・サイクルツーリズムについて。いい場所はたくさんある。そこでどのように楽しむのか。働きかけによっていいものが作れる。

・「広域 DMO」「沿線」は必要。仕組みづくりは行政が後押しし、自走は民間。方法としては、自転車と電車を使う。

・自転車が進んだ県として発信できれば面白い。

・そこに住んでいる人しかわからないようなものがある。そういうものは民間でつくる。そこに自転車などを行政が組み合わせて、繋げていく。

・例えば、自転車置き場(ラック)が行政側から支給されれば、ありがたい。